

# 自動車総連 第53回大会 会長挨拶

(2024年9月5日 於：新潟県民会館 大ホール)

## 〈はじめに〉

- 本年元日に発生した能登半島地震では、組合員やそのご家族をはじめ数多くの方々が被災され、今なお不自由な生活を強いられています。ここ新潟でも多くの世帯で被害に遭われたと承知しています。自動車総連ではこれまで、連合ボランティアへの派遣やカンパ活動などを通じて対応して参りました。活動にご協力いただきました労連・単組の皆さんに心から感謝申し上げます。そして、あらためて被災された全ての方々に、お見舞いと一日も早い復旧・復興をご祈念申し上げます。

## 〈取り組みの「根本」を知る必要性〉

- 「守破離」とは、学ぶ姿勢や順序、成長する過程や流れを表した言葉である。しかしその教えで一番大事とするのは、独自の型を見出しても根本の精神を見失ってはならない、「本[本]を忘れるな」と強調されている点にある。
- 日常業務の中で、目の前の作業をこなすことに意識が向くあまり、何のためにその仕事をしているのか、本来の目的を見失ってしまったことはないか。
- 自動車総連の運動に関しても例外ではないと考えている。方針として掲げた様々な取り組み項目に何故取り組まなければならないのか、このことについて自動車総連の根本に立ち返ってみたい。
- 52年前の結成時に策定された自動車総連の綱領には5つの記載がある。1つ目に「われわれは産業社会の改革者としての誇りと勇気をもって、労働者の経済的、社会的、政治的地位の向上をはかる」とある。すなわち、我々自動車総連の存在価値の基本の一つには、労働者の経済的、社会的、政治的地位の向上を図ることにあると宣言しているわけである。したがって、賃上げをはじめとする労働条件の改善や、社会保障制度・税制改正への関与、共済などは労働者の経済的地位の向上のため。また、働く者の尊厳や人権の確保、ジェンダー平等・多様性推進やディーセントワークの実現などは社会的地位の向上のため。そして政治的な観点では、国や各地方行政において労働者の立場からの影響力を行使できるようにすべく、組織内議員の擁立や連携に加え、各級選挙を通じた特定政党や議員の支援等を行っている。
- これらは一例だが、取り組みの一つ一つには組織としての根本が備わっており、そこには明確な意思があるはず。組織として、労働組合としての役割を果たしていくためには、我々はこのことを理解した上で、常に活動にあたるべきである。

## 〈「面着」の意義の再認識〉

- 新型コロナウイルスの終息宣言が発出されて1年以上が経過した。ニューノーマルに対応するために、労働組合の活動のあり方も余儀なく見直しを迫られ、人と直接会わなくても成り立つ方法が求められてきた。実際、会議のオンライン開催や、チャット機能を活用した打ち合わせ、情宣物の紙からデジタルツールへの転換など、様々な改善がなされてきた点は大いに評価されるべきで、守ってきた型をいい形で破ったわけである。
- 他方で、「人と面着しないこと」だけを目的としてしまったことはないか。全体的な面着機会の減少による活動の消極化が懸念される。元来、組合活動で「面着」を重視してきたのは、単に「人と直接会う」ことではなく、その機会を通じて組合員との接点生まれ、その中でこちらの思いを伝え、現場の生の声が聞けたからだ。労働運動の根本は、組合員や現場の声を聞き、それを踏まえて経営や社会に働きかけ、変化を促すことにある。面着にしろそうでないにしろ、自分の思いが組合員に伝わっているか。現場の声が聞けているか。こうした組合としての根本が守れているかを常に意識し、職場との向き合い方を工夫していくことが肝要だ。

## 〈後半期の取り組みに関して（含 来春の取り組み）〉

- 今次春の取り組みでは、全体としては前年を上回る近年に無い大きな成果を挙げ、また未組織や取引先をはじめ日本社会全体への波及効果も一定程度あったと考える。一方でこうした成果により、中小企業労使を中心に、必ずしも十分な賃上げが果たせていないという実情も認識しておく必要がある。
- 来春に向けた方針検討はこれからだが、慢性的な人手不足や消費者物価指数、経済状況や格差是正等、どの観点からも少なくとも現段階において、この賃上げの流れを止める理由はない。まずやるべきことは、道半ばである取引の適正化（価格転嫁）を加速させ、ティアの深い層にまで着実に行き届かせることだ。そのために、企業間ではなかなか伝えられない現場の本音の困り事を把握し改善に向けて取り組むなど、これまでよりも一歩踏み込み、全てのメーカー系列が集まる自動車総連だからこそできる、立場の弱い人に寄り添った活動を進めていく。
- わが国の基幹産業である自動車産業が、強靱なサプライチェーンのもと発展し続けることが重要である。そのためには働きがいのある職場環境の構築、また働きたいと思われる産業そのものの魅力の創出が不可欠である。自動車総連として後半期はこれらの点に注力し、賃上げを実現し得る環境の整備と、働き方の改善による産業の魅力向上に向けて運動を進めていく。

### 〈政治情勢と次期参院選に向けて〉

- 今月、自民、立憲それぞれの代表選が行われるが、この結果次第では、早ければ年内中にも総選挙が行われる可能性がある。この選挙では、誰もが感じている政治不信を払拭し、働く者の望む社会を実現し得る“大きな政治的変化”に期待が集まっている。国民民主党には、国民の負託に応え得る大きな塊の中核を成していけるよう更なる奮起に期待している。
- 来年にかけて地方選挙が全国で行われる。当該労使や住民では解決できない課題に対し、我々の思いを代弁し国や地方議会に意見反映してくれる組織内議員の擁立は、労働者の政治的地位の向上といった自動車総連としての根本に通じる重要な取り組みである。
- そして来年7月には、参院選による「いそぎき哲史」3期目の戦いが行われる。「いそぎき哲史」は我々が支援している国民民主党の全国比例代表候補として戦うため、自動車総連としては、当選順位にかかわる個人名での投票にこだわり、活動を展開していく。

### 〈結び〉

以 上